

○ 3月例会 および巡検の報告 (1984.3.17-18.秩父盆地で)

〔巡検〕 案内者：吉永秀一郎・宮寺正美 (都立大)

『荒川の河岸段丘』

〔例会〕

1. 清水長正 (明大・院)：「多良川上流域における最終氷期の周氷河地域下限について」。
2. 渡辺惇二 (筑波大・院)：「立山連峰, 内蔵之助カールの高山環境」。
3. 田村光穂 (学芸大・院)：「北アルプス穂沢の崖錐植生と植生分布」。

— 内容 —

〔巡検行程とみどころ〕

17日. 尾田蒨丘陵 (安立ロームと尾田蒨スキー場) — 柳大橋 (埋没谷)
— 三峰口 (影森スキー場とその上位のスキー場)

18日. 影森 (影森スキー場) — 羊山丘陵 (中位段丘)
— 大野原 (横瀬川の堆積物) — 栗谷瀬橋 (スキー場中のschist)
— 長瀬 (博物館, 岩畳) — 寄居

現地では晴天に恵まれ, 県立自然史博物館の野田瑞男氏にも説明を頂き, 各地まで活発な討論がなされた。
(参加者：21名)。

〔発表〕

1. 多良川上流域の山地における, 岩塊斜面と頂核部に載る P_m-I から, 最終氷期の周氷河地域の垂直分布を次のように考えた。2100 ~ 1600 m 以上が周氷河極相地域。1500 ~ 1100 m 以下が非周氷河地域。両者の間を周氷河-非周氷河漸移地域と推定される。

2. 最大積雪深, 消雪時期, 地表面物質, 高度分散量および地表面の安定性の表から, 内蔵之助カールを8つの景観単位に区分し, それぞれの高山環境を分析した。さらにカール内の地形分類を試み,

先の結果を用いて 地形単位ごとの高山環境を明らかにした。

3. 後背斜面の斜面長, 地質, 傾斜, カリ-床の傾斜変化, 崩壊地の有無に注目し, 崖錐面の安定性を推察することによって, 檜沢谷頭部の多様な植被パターンを考えた。植被パターンは大きく3つに区分されるが, それは岩種によって 石礫の大小や, 斜面長, 土石流頻度(残雪凹地の有無)などによって説明される。

○ 5月例会のお知らせ

日時 5月24日(木) 17:30 ~ 19:30

※今回は 平日の夕方です。

場所 明治大学大学院棟 310教室(3F)

発表内容

- 1) 叶内 敦子氏(明大・院): 奥鬼怒地方の完新世
の環境変遷
- 2) 鈴木 由告氏(福生郷土資料室): 吾妻山西面における
森林の垂直分布

☆ 事務局 移動について

本年5月より事務局が筑波大から明治大に変わりました。

担当は, 叶内 敦子(D₁), 清水長正(D₂)です。以降, おひき立ての程, よろしくお願い致します。

<連絡先>

〒101 東京都千代田区神田駿ヶ台1-1

明治大学地理学研究室 叶内 敦子 気付

TEL 03(296)2258 事務日: 火・水(10:00~)

宣伝

まもなく出版される フレッシュ: 「周氷河環境」の訳本(別紙参照)
会員の方に2割引(6,500円→5,200円)で頒布できます。
希望者は新事務局まで御一報下さい。

会費の値上げおよび 会費納入方法等についてのお知らせ

1984年5月15日

1、1984年度より、年間会費を1,500円にさせていただきます。
すなわち1984年度の会費を1,000円分納入された方は、不足分500円を納入して下さいようお願いいたします。

2、また、本会会員数は年々増加する傾向にあります(84.5月現在、100名を越えています)。そのため、これまでのように納入期限を決めずに行ってきた、事務局の管理が大変になり、参りました。そこで、本年度より下記のように会費の納入期限を設けさせていただきますことになりました。

毎年、7月末日までに会費を納入すること。

7月末日までに事務局に会費(1,500円)を納入しない場合は、通信文の発送をただちに打ち切り、会員名簿より抹消する。

3、会費は次回同封する払込用紙を使い、納入して下さい。
なお、従来通り、別会に直接お支払い下さる結構です。

上記の内容については、5月の別会に提案し、4月5日の総会(大茶大)で承認を受けました。

尚ほどうぞよろしくお願い申し上げます。

(筑波大事務局報い)